

地域再生計画評価調書(地方創生推進交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	今治型産業クラスター構築計画	地域再生事業の名称	今治型産業クラスター構築事業	平成28年度評価
-----------	----------------	-----------	----------------	----------

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標		基準年数値 2015年 (平成27年)	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度				地域再生事業の効果・分析	
			2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	最終年目標数値 2018年		
目標1	輸送用機械器具、繊維製造品出荷額	3,674 億円	目標	+147 億円 (3,821 億円)	+153 億円 (3,974 億円)	+159 億円 (4,133 億円)	+459 億円 (4,133 億円)	目標1および目標2のうち繊維工業従業者数の増加については、工業統計調査集計が今年の12月頃になるため数字はないものの、平成28年の輸送用機械器具製造業従業者数は6,761人で平成27年と比べて709人増となっており、輸送用機械器具については平成27年度の今治市内の造船竣工量の隻数が約100隻、トン数が約128万トンで平成26年度と比べて隻数及びトン数もほぼ前年並みとなっており、また平成28年度の今治タオルの生産額は183億円で平成27年度と比べて5%アップしていることから、KPI数値は比較的順調に推移していると推測される。バリチャレンジユニバーシティの開催やシティクライヤーの著名人への委嘱により今治への注目度が高まったことによる経済効果は大きいと思われる。 目標3の数値については、昨年度と比べて減少しているが、みなと交流センター「はーばりー」及びまちなか活性化サロン「ぷらっと」などの中心市街地の交流拠点が整備されたことにより今後緩やかに回復することが見込まれる。
			実績	—			—	
			達成度	—			—	
目標2	輸送用機械器具製造業従業者数	6,052 人	目標	+237 人 (6,289 人)	+237 人 (6,526 人)	+237 人 (6,763 人)	+711 人 (6,763 人)	
			実績	+709 人 (6,761 人)			+709 人 (6,761 人)	
			達成度	299.2%			99.7%	
目標2	繊維工業従業者数	3,056 人	目標	+12 人 (3,068 人)	+12 人 (3,080 人)	+12 人 (3,092 人)	+36 人 (3,092 人)	
			実績	—			—	
			達成度	—			—	
目標3	中心市街地の歩行者と自転車の通行量(人/日)	2,468 人	目標	+98 人 (2,566 人)	+99 人 (2,665 人)	+99 人 (2,764 人)	+296 人 (2,764 人)	
			実績	▲118 人 (2,350 人)			▲118 人 (2,350 人)	
			達成度	▲120.4%			▲39.9%	

評価年度において実施した事業

事業名	繊維染色加工業の基盤強化事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(ア)海事とタオルのまちづくり 取組:①次世代の人材育成	事業費	3,000千円
-----	----------------	--------------	--	-----	---------

事業概要

今治タオルのブランド価値というべき厳しい品質基準を支えているのは、今治地域の繊維染色加工業者の技術力であるが、そのことはほとんど認知されておらず、人材不足や設備の老朽化等の潜在的な課題を抱えている。そこで、繊維染色加工業のイメージを向上させ、新たな人材の獲得と育成を図るために、愛媛県繊維染色工業組合を事業主体として、業界、研究機関、行政などで構成する検討委員会(繊維染色産業基盤強化検討委員会)を立ち上げ、今後の実施事業を検討した。

事業効果

■繊維染色産業基盤強化検討委員会委員…13名【委員長:山本敏明(西染工株)】、委員会開催期間…H28.7~H29.3(計7回開催)、外部委員による研修会…H28.11~H29.3(計4回開催)、他産地視察…H29.3(福井染色同業会、播磨織工業協同組合外2か所)

繊維染色産業基盤強化事業実施の為の問題点を整理し、次年度からの実施事業の方向性を下記のとおり決定した。

1. 染色の技術訴求…今治タオルの品質を支えている染色技術の価値を効果的に伝えるための方法などを確立していく。
2. 提案力強化…発注されたとおりに染める現状から、日本流行色協会などとコラボして今治発の流行色商品を開発し、自らの文化を発信できるようにしていく。
3. 産地デザイン…色彩文化に関わる産業として情報発信型の産地を目指す。

事業名	バリチャレンジユニバーシティの開催	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:①人材還流・人材育成・雇用対策	事業費	2,000千円
事業概要		<p>市内の高校生、今治市出身の大学生を中心として、県内外から多くの若者が今治市にて一堂に会し、FC今治のアドバイザーボードメンバーや若手起業家とのセッションを通じて、地域を牽引する人材育成や若者が果敢にチャレンジできる「学びの場」づくりのために、ワークショップ、講演会等を開催した。(平成28年度は今治青年会議所50周年記念大会との同時開催)</p> <p>■開催日時:平成28年8月26日～28日 ■開催場所:みなと交流センター ■主催:バリチャレンジユニバーシティ実行委員会 ■参加人数:102名(応募総数445名)</p> <p>■ワークショップテーマ:「FC今治のオーナーとして複合型スタジアムを構想し、今治を活性化せよ」</p>			
事業効果		<p>100名の募集定員に対して445名の応募があり、岡田武史氏の人的ネットワークにより錚々たるボードメンバーが講師やパネリストとして参加する等、今治市に大きな注目が集まる事業となった。また三日間という短期間でのワークショップ開催となったが、高校生から社会人まで世代を超えた多様な交流の中で、若者の感性による提案から、新たな起業のチャンスや今治ブランドの価値を高めるアイデアが生み出された。</p> <p>■参加者出身内訳:県内32名、関東44名、近畿9名、その他15名、海外2名、■参加者所属内訳:市内高校生18名(17.6%)、大学生69名(67.6%)、社会人15名(14.7%)、■マスコミ報道 13件</p>			
事業名	いまばりシティクライヤー設置事業	総合戦略における位置づけ	基本目標:1. だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る 具体的施策:(イ)地域の企業・産業が成長するまちづくり 取組:④シティプロモーションの推進	事業費	464千円
事業概要		<p>都市部への情報発信の機会が多い市民等を、「いまばりシティクライヤー(今治市の魅力や情報を発信する市民)」として任命し、本市の産業、観光及び文化等の魅力をそれぞれ独自の方法で全国に拡散してもらうことで、本市の知名度及びイメージの向上を図る。平成29年度から開始する一般公募に先駆け、平成28年度は各界著名人に就任を依頼し、市の地域資源・観光資源等の魅力発信の契機として活用してもらうためシティクライヤー用カード(産業情報等をQRコードにて入手可)を作成した。</p>			
事業効果		<p>20名の今治縁の著名人へ依頼したことにより、これら著名人の人的ネットワークを活用することで、国内はもとより海外へも今治市に関わる情報発信を効果的に行うツールとなった。</p> <p>■今年度依頼者:岡田武史(株今治 夢スポーツ代表取締役会長)、伊東豊雄(建築家)、MAYA MAXX(画家)、青野慶久(サイボウズ株)、檜垣幸人(今治市海事都市交流委員会会長)、近藤聖司(今治タオル工業組合理事長)、徳永純司(パティシエ)、他13名</p> <p>■クライヤーカード作成数4,000枚(シティクライヤー1人あたり200枚)</p>			
事業名	中心市街地活性化事業の展開	総合戦略における位置づけ	基本目標:4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策:(ウ)中心市街地の再生 取組:①中心市街地の再生	事業費	8,732千円
事業概要		<p>商店街の中で消費活動やコミュニティ活動を活発化させ、資金循環を良くすることで経済活動の自立的な循環を促進することが重要である。そこで魅力ある商店街を実現するため、今治市中心市街地再生協議会を事業主体として、空き店舗となった店舗併用住宅の「商住分離」を行い、店舗機能のみ賃貸できるようにする等、商業空間の活性化対策を検討するとともに、まちなか交流スペースへの転換を進める。また商店街既存店舗の新陳代謝を促すため、商工会議所等と協力して、商店街で創業・起業する意欲のあるものを支援する。</p> <p>■まちなか活性化サロン「ぶらっと」開設</p> <p>■まちなか居住支援事業</p> <p>■まちなか移住交流推進事業費補助金(NPO法人 シクロツーリズムしまなみ)</p>			
事業効果		<p>第2期今治市中心市街地再生基本計画に基づき、今治市中心市街地再生協議会の事業として以下の事業を実施した。</p> <p>■まちなかでのイベント等観光情報や空き店舗情報等を収集分析し、情報を必要とする方へ正確に提供するためのサービス拠点(コンベンションビューロー)として、まちなか活性化サロン「ぶらっと」を中心商店街(常盤町2-1-1)に開設。</p> <p>■まちなか居住センターの設立に向け、中心市街地再生協議会内にまちなか居住支援委員会を設置し、まちなかの不動産情報の掘り起こしと一元化を行った。商店街内の空き店舗調査を行った上で、今治宅建協会並びに全日本不動産協会県本部から推薦のあった10社とともに、不動産情報の公開に向けた精査を行い、7件(うち3件商店街)を登録した。</p> <p>■地域活性化を学ぶ学生、移住希望者を対象に、2週間から1ヶ月滞在できるサイクルオアシス総合拠点「シクロの家」を住まいとして提供し、お試し居住することで地域の風土に触れる機会を提供した。(訪問相談:25名、お試し居住者:10名、移住者2名)</p> <p>■「お試し居住」希望者が、今治市での働き方、暮らし方を体感する機会とするため、企画段階から参画する交流サイクリングツアーを催行した。(ツアー回数:8回、参加者:延べ105名)</p> <p>■まちなか移住講座の開催、まちなかマップの製作。</p>			

外部有識者からの意見

- ・地域再生計画の「繊維染色加工業の基盤強化」カテゴリに関連して、現在、捺染業については外国人実習生を受け入れる職種になっておらず、実際に進めていくには非常に高いハードルが設定されているが、ぜひとも実現できるよう尽力してほしい。
- ・バリチャレンジユニバーシティについて、今治市役所の若手職員も能力開発の一環として参加してほしい。また、地元の愛媛大学や明德短期大学の地域活性化の取組を内容に反映させてほしい。
- ・中心市街地活性化について、行政側だけの努力ではなく、地域住民の意欲を引き出すような支援を考えてほしい。
- ・街なかの観光振興について、しまなみDMOとも連携して、増加傾向の外国人観光客に訴求するような施策をすすめてほしい。
- ・数値目標実績で中心市街地の通行量がマイナスとあるが、今治駅の降車客数は増加している実感がある。参考数値として示してほしい。